

日本宗教学会
第51回学术大会

期 日 1992年9月12日(土)~14日(月)

会 場 淑 德 短 期 大 学

埼玉県入間郡三芳町藤久保1150

お知らせ・お願い

1. 受付で名札をお受け取り下さい。
2. 受付には学会本部が出張しております。学会費未納の方はお納め下さい。
3. 研究発表者は、なるべく発表の2番前には、その部会会場へおいで下さい。
4. 研究発表は1人15分、質問時間は5分となっております。発表時間の厳守をお願いいたします。
5. 研究発表のレジメ（1600字程度）を部会責任者にお渡しください。
（9月14日午後4時30分締め切り。以後は一切受け付けませんのでご注意ください。）
6. 荷物は所定のクロークをご利用下さい。
7. 昼食は、1号館シルクロードをご利用下さい。
喫茶室は、シルクロードのカフェテリアに開設しています。
8. 喫煙は、所定の場所以外ではご遠慮下さい。
9. 会場に湯茶の用意がしてあります。ご自由にご利用下さい。

| | |
|----------|-------------|
| 受付 | 1号館2階ロビー |
| 会員休憩所 | シルクロード |
| クローク | 1号館エクステンション |
| 日本宗教学会本部 | 1号館第1会議室B |
| 学術大会本部 | 1号館第1会議室A |

特別展示

淑徳短期大学蔵 中国石刻拓本展

会場：体育館アリーナ

期間：9月12日(土)～14日(月)
午前10時～午後5時

日 程

9月12日(土)

| | | |
|-------------|------------|-------------|
| 学会賞選考委員会 | (第3会議室) | 12:00~14:00 |
| 『宗教研究』編集委員会 | (第2会議室) | 16:00~17:00 |
| 公開講演会 | (1号館208教室) | 14:00~17:00 |

「ビジョナリ・コンパクト——アメリカ文学とピューリタニズム——」

大乘淑徳学園学術顧問 坂下 昇

「日本宗教の伝統とその現代性」

大正大学教授 田丸 徳善

| | | |
|-----|-------------|-------------|
| 理事會 | (1号館シルクロード) | 17:30~19:30 |
|-----|-------------|-------------|

9月13日(日)

| | | |
|---------|----------------|-------------|
| 開 会 式 | (1号館208教室) | 9:00~9:20 |
| 研 究 発 表 | (1号館 各教室) | 9:20~12:00 |
| 評 議 員 会 | (2号館 シルクロードII) | 12:00~13:30 |
| 研 究 発 表 | (1号館 各教室) | 13:30~16:30 |
| 記 念 撮 影 | (コートヤード) | |
| 懇 親 会 | (1号館シルクロード) | 17:30~19:30 |

9月14日(月)

| | | |
|-------------|------------|-------------|
| 研 究 発 表 | (1号館 各教室) | 9:00~12:00 |
| 評議員選考委員会 | (第3会議室) | 12:00~13:30 |
| 『宗教研究』編集委員会 | (第2会議室) | 12:00~13:30 |
| 研 究 発 表 | (1号館 各教室) | 13:30~16:30 |
| 總會・閉会式 | (1号館208教室) | 16:40~18:00 |

第 1 部 会 (201教室)

9月13日(日) 午前(9:20~12:00)

- | | |
|---|-----------------------|
| 1. ウェーバーの倫理思想 | 横 田 理 博 (東 大) |
| 2. ウェーバーの政治宗教論 | 椿 實 |
| 3. デュルケーム宗教論における「社会」の問題 | 山 崎 亮 |
| 4. ジョルジュ・バタイユの「宗教史」の構想(3) | 檜 尾 直 樹 (早 大) |
| 5. レヴィ・ストロースとマリノウスキーにおける神話論の視点 | 高 橋 涉 (宮 城 学 院 女 子 大) |
| 6. 日本神話における正典とヴァリエーション | 磯 前 順 一 (東 大) |
| 7. 「神から人」と「人から神」— Anselmus, Cur deus homo? を手掛に — | 松 村 一 男 (天 理 大) |
| 8. 合理的思惟と宗教 — その並存と相剋 — | 宇 都 宮 輝 夫 (北 大) |

9月13日(日) 午後(13:30~16:30)

- | | |
|------------------------------------|---------------------|
| 1. エリアーデにおけるヨーガとシャーマニズム | 奥 山 倫 明 (東 大) |
| 2. ヴァン・デル・レーウにおける「学問」の理念について | 木 村 敏 明 (東 北 大) |
| 3. 宗教学における客観性をめぐって — 岸本宗教学の批判的検討 — | 島 田 裕 巳 (日 本 女 子 大) |
| 4. 信仰の非合理性と自然法爾 | 遠 山 諦 虔 (日 大) |
| 5. 信仰のコトバとその意味構造 | 澤 井 義 次 (天 理 大) |
| 6. 象徴的認知とその作用に関する一考察 | 入 江 康 介 (久 留 米 大) |
| 7. 新宗教における聖典の形成について | 福 嶋 信 吉 (東 大) |
| 8. 教典研究と文学理論 | 土 屋 博 (北 大) |

9月14日(月) 午前(9:00~12:00)

- | | |
|---|-------------------|
| 1. 宗教体験としての「夢」 | 海 山 宏 之 (筑 波 大) |
| 2. 19世紀アメリカにおける心理学的な救済論(2) — 民間療法の世界観 — | 葛 西 賢 太 (東 大) |
| 3. 元型的表象と自我・意識 — マンダラの日本の変容 — | 河 東 仁 (東 京 高 専) |
| 4. 西行における花と月 | 渡 辺 学 (南 山 大) |
| 5. 「信ずる意志」について | 吉 永 進 一 (佛 教 大) |
| 6. 地理学における宗教研究の展開 | 松 井 圭 介 (筑 波 大) |
| 7. タイトな宗教、ルースな宗教 | 中 牧 弘 允 (国 立 民 博) |

9月14日(月) 午後(13:30~16:30)

- | | |
|-----------------------|---------------------|
| 1. 終末時現象と啓示 | 石 神 武 信 |
| 2. 現実的契機の生成と神の原初的性格 | 京 屋 憲 治 (東 海 大) |
| 3. 不可知論は宗教的寛容の視座たりうるか | 酒 井 サヤカ (日 本 歯 科 大) |
| 4. 信仰と教団 | 加 藤 智 見 (東 京 工 芸 大) |
| 5. 神と他者 | 土 井 道 子 |
| 6. 物象化(論)と意識の宗教学的批判 | 笹 尾 典 代 (筑 波 大) |
| 7. 信仰の重層構造について | 華 園 聰 麿 (東 北 大) |

第 2 部 会 (202教室)

9月13日(日) 午前(9:20~12:00)

- | | |
|---------------------------------|-----------------|
| 1. ルイスの妖術を使うシャーマンとソクラテス | 保 坂 幸 博 (東 海 大) |
| 2. プラトンにおける神の概念について | 和 田 義 浩 (早 大) |
| 3. コギトと自己意識の系譜——デカルト、サルトル、アンリ—— | 北 村 晋 (早 大) |
| 4. デカルトにおける無限の観念 | 阿 部 文 彦 (早 大) |
| 5. ベルクソン宗教哲学にみえる二つの「全体性」 | 安 藤 恵 崇 (京 大) |
| 6. メルロ＝ポンティにおける身体とことば | 本 郷 均 (早 大) |
| 7. 反省哲学と解釈学——リクールの師としてのナペール—— | 岩 田 文 昭 (京 大) |
| 8. 宗教と性イデオロギー | 大 越 愛 子 (近 大) |

9月13日(日) 午後(13:30~16:30)

- | | |
|---------------------------------|---------------------|
| 1. ル・フォールにおける回心 | 八 木 博 (山 梨 大) |
| 2. ライプニッツにおける「観念」について | 岡 部 英 男 (東 京 音 大) |
| 3. カントの実践理性をめぐる | 気 多 雅 子 (金 沢 大) |
| 4. カントにおける恩恵の問題 | 笠 井 貞 (東 洋 大) |
| 5. ヘーゲルにおける死の思想 | 日 暮 雅 夫 (早 大) |
| 6. 後期シェリング哲学におけるキリストについて | 諸 岡 道比古 (弘 前 大) |
| 7. W. v. フンボルトの言語思想 | 谷 口 静 浩 (関 西 学 院 大) |
| 8. ニヒリズムについて——オペライト、ヤコービ、フィヒテ—— | 藤 田 正 勝 (京 大) |

9月14日(月) 午前(9:00~12:00)

- | | |
|-------------------------------|---------------------|
| 1. マルティン・ハイデッガーの思惟における〈神的なもの〉 | 鈴 木 哲 (早 大) |
| 2. ニーチェとハイデッガー | 秋 富 克 哉 (大 阪 外 大) |
| 3. 初期ハイデッガーにおける「事実性」の概念 | 松 田 美 佳 (京 大) |
| 4. 「危険」——ハイデッガーの思惟—— | 戸 島 貴代志 (京 大) |
| 5. ハイデッガーとヴァイトゲンシュタイン | 神 尾 和 寿 (新 居 浜 高 専) |
| 6. ハイデッガーにおける「無」の諸相 | 久 保 紀 生 (大 正 大) |
| 7. シューラー倫理学における個性性と連帯性について | 浅 野 博 之 (東 北 大) |
| 8. フッサール現象学と唯識思想 | 司 馬 春 英 (大 正 大) |

9月14日(月) 午後(13:30~16:30)

- | | |
|-----------------------------------|---------------------|
| 1. 西田哲学の身体論とホリスティックメディシン | 森 本 聡 (京 大) |
| 2. 西田哲学における私と汝 | 中 山 一 萱 (京 都 産 業 大) |
| 3. 逆対応の論理について | 小 坂 国 継 (日 大) |
| 4. 田辺元の「懺悔道としての哲学」について | 保 呂 篤 彦 (南 山 大) |
| 5. 『沙門道元』における「法」のとらえ方について | 辻 口 雄 一 郎 (刈 谷 東 高) |
| 6. 哲学者の浄土真宗観——西田幾多郎、田辺元、三木清をめぐる—— | 田 辺 正 英 (富 山 医 薬 大) |

第 3 部 会 (203教室)

9月13日(日) 午前(9:20~12:00)

- | | |
|----------------------------------|-----------------------|
| 1. キェルケゴールにおける「宗教」と「倫理」 | 大 利 裕 子 (京 大) |
| 2. 和辻哲郎におけるキェルケゴール解釈II | 北 田 勝 巳 (大 阪 電 通 大) |
| 3. キェルケゴールの教会批判 | 柳 堀 素 雅 子 (大 正 大) |
| 4. レッシングとキェルケゴール | 谷 口 郁 夫 |
| 5. オリゲネスとホワイトヘッド——人間神化のプロセス—— | 松 丸 太 (京 大) |
| 6. ホワイトヘッドにおける「不死性」の問題 | 谷 崎 秋 彦 (国 士 館 大) |
| 7. ウェスレーにおける魂の回帰について | 野 村 誠 (共 愛 学 園 女 短 大) |
| 8. 近世自然神学の一考察——ハーバードの理論的特質について—— | 玉 井 実 (東 京 工 芸 大) |

9月13日(日) 午後(13:30~16:30)

- | | |
|-----------------------------------|---------------------|
| 1. 影と返照——十字架のヨハネに於る「神秘的合一」のイメージ—— | 鶴 岡 賀 雄 (工 学 院 大) |
| 2. V. ヴァイゲルについて | 名 木 田 薫 (岡 山 理 科 大) |
| 3. 宗教詩人シレジウスの信仰生活観 | 青 山 玄 (南 山 大) |
| 4. シレシウスの神祕思想詩 | 岡 部 雄 三 (東 大) |
| 5. 『パルツィヴァール』とケルト神話との関係 | 長 井 英 子 (関 東 学 院 大) |
| 6. ゲーテのファウストの基本構造 | 大 西 博 文 (関 西 学 院 大) |
| 7. エックハルトの有の理解 | 田 島 照 久 (早 大) |

9月14日(月) 午前(9:00~12:00)

- | | |
|----------------------------------|-------------------|
| 1. ワイマル共和国末期における「ドイツ宗教」 | 深 澤 英 隆 (東 大) |
| 2. 20世紀に於ける神話論——「啓蒙の弁証法」をめぐって—— | 田 口 博 子 (東 大) |
| 3. ワイマル期における宗教思想の諸相 | 島 田 勝 巳 (東 大) |
| 4. テイリッヒ神学の統一的解釈について | 大 島 末 男 (麗 澤 大) |
| 5. 初期テイリッヒ宗教哲学における「自律」の問題 | 宮 崎 真 矢 (東 北 大) |
| 6. テイリッヒ『組織神学』(6)——「啓示」の意味—— | 日 下 部 哲 夫 |
| 7. プロテスタント神学と宗教批判——P. テイリッヒの場合—— | 芦 名 定 道 (大 阪 市 大) |

9月14日(月) 午後(13:30~16:30)

- | | |
|--|---------------------------|
| 1. 永遠の神の子と永遠の菩薩——パトリスティック神学論争と仏教思想—— | 尾 崎 誠 (明 大) |
| 2. キェロ『友情論』の十二世紀キリスト教思想への影響 | 大 道 敏 子 (北 大) |
| 3. A. ジャドソン編『現地ビルマ人牧師用礼拝手引書』(1836)について | 平 木 光 二 (東 方 研 究 会) |
| 4. 新英語訳聖書の翻訳に見られる受肉のイエス像 | 木 原 範 恭 (近 大) |
| 5. 歴史叙述の問題——キリスト教史との関連で—— | 掛 川 富 康 (茨 城 キ リ ス ト 教 大) |
| 6. ルカ教団とその周辺 | 細 田 あ や 子 (東 大) |
| 7. 日本正教会における降誕祭の祝日について | 尾 田 泰 彦 (越 谷 市 立 西 中 学 校) |
| 8. 預言の終息について | 市 川 裕 (東 大) |
| 9. アモス預言の主題的構造 | 吉 田 泰 (明 学 大) |

第 4 部 会 (204教室)

9月13日(日) 午前(9:20~12:00)

- | | | | |
|---|--------------|---|--------|
| 1. 役割としての聖職 | 佐久間 光 昭 | | |
| 2. チャンキヤー世の一小論について | 梶 濱 亮 俊 (撰 | 南 | 大) |
| 3. BUDDHISM AND CASTE IN MAHARASHTRA | フィッツジェラルド (愛 | 知 | 学 院 大) |
| 4. Tridoṣa 研究 — prameha-pidakā との関連から — | 伊 藤 道 哉 (東 | 北 | 大) |
| 5. brahman, paramātman, parameśvara — その2 — | 村 上 幸 三 (東 | 北 | 大) |
| 6. Ratnāvalī に見られる二諦弁別について | 岸 根 敏 幸 (東 | | 大) |
| 7. Śraddhā と parā-śraddhā | 関 戸 法 夫 (東 | 方 | 研 究 会) |
| 8. 七覚支説の諸相 | 大 南 龍 昇 (大 | 正 | 大) |

9月13日(日) 午後(13:30~16:30)

- | | | | |
|---|------------|---|----------|
| 1. 宗教体験における shruti(聞)の意味 — 浄土教典を中心として — | 村 石 恵 照 (江 | 戸 | 川 女 短 大) |
| 2. 原始仏教聖典に見られる女性観 — 容色を中心として — | 竹 内 良 英 (愛 | 知 | 学 院 大) |
| 3. 小毘婆沙の考察 | 前 田 至 成 (相 | 愛 | 大) |
| 4. 久発心菩薩について | 勝 崎 裕 彦 (大 | 正 | 大) |
| 5. 「菩薩地」戒品所説の三聚浄戒の構造 — 4 — | 齊 藤 舜 健 (佛 | 教 | 大) |
| 6. 『俱舍論』における三十七道品 | 西 村 実 則 (大 | 正 | 大) |
| 7. 『阿毘達磨集論』世親釈の唯識 | 樋 田 道 男 (大 | 谷 | 大) |
| 8. 真実 (tattva) と不可説なもの | 村 上 真 完 (東 | 北 | 大) |

9月14日(月) 午前(9:00~12:00)

- | | | | |
|--------------------------|------------|---|--------------|
| 1. 無記説等に現れる諸課題について | 茨 田 通 俊 (大 | 谷 | 大) |
| 2. 涅槃の異名の成立過程 | 吉 元 信 行 (大 | 谷 | 大) |
| 3. 五~八世紀の西インド仏教の盛衰について | 保 坂 俊 司 (麗 | 澤 | 大) |
| 4. 青頸観自在の図像学的特徴 | 佐久間 留理子 (名 | | 大) |
| 5. インド仏像坐勢にみられる三様式の系統 | 彦 坂 周 (ア | ジ | ア 文 化 研 究 所) |
| 6. 唯識比量における「法自相決定相違」について | 原 田 高 明 (大 | 谷 | 大) |
| 7. 智顛の「随情説・随情智説・随智説」について | 稲 葉 広 由 (大 | 谷 | 大) |
| 8. 初期中国仏教に於ける羅漢信仰 | 里 道 徳 雄 (東 | 洋 | 大) |

9月14日(月) 午後(13:30~16:30)

- | | | | |
|------------------------------------|------------|---|--------|
| 1. 『弁財天経』と『大荒神経』 | 服 部 法 照 | | |
| 2. 王日休『龍舒浄土文』の研究 — その撰述年次と増広考 — | 林 田 康 順 (大 | 正 | 大) |
| 3. 趙宋時代の浄土観 | 柏 倉 明 裕 (大 | 谷 | 大) |
| 4. 吉田文庫本『修真九轉丹道圖』について | 前 田 繁 樹 (山 | 村 | 女 短 大) |
| 5. 三身説について | 緒 方 正 親 (龍 | 谷 | 大) |
| 6. 日諱貴本記について | 伊 藤 聡 (早 | | 大) |
| 7. 古代中国に見る神化とその理念形態 | 栗 原 圭 介 (大 | 東 | 文 化 大) |
| 8. 祖先崇拜の「思想」 — 古代中国を中心とする比較文化的考察 — | 池 澤 優 (筑 | 波 | 大) |
| 9. 中国の近代化と民俗宗教 — 地域調査を踏まえて — | 櫻 井 徳 太郎 | | |

第 5 部 会 (205教室)

9月13日(日) 午前(9:20~12:00)

- | | | | |
|--------------------------------|---------|-----------------|------|
| 1. 人間親子説について | 宮 田 十寸穂 | | |
| 2. テキスト分析による大字真霊教の考察 | 清 家 久 美 | (九 | 大) |
| 3. 長松清風の病氣なおしについて(二) | 小 川 恵 司 | (立 | 正 大) |
| 4. 日本の新宗教 — ニューヨークのSGI調査の報告 — | 大久保 雅 行 | (久 留 米 | 大) |
| 5. 現代に生きる愛知県内の教団 | 川 上 光 代 | | |
| 6. 日常生活の中の宗教(2) — 辯天宗の事例を中心に — | 鳥 井 由紀子 | (東 海 | 大) |
| 7. 婦人のネットワークと信仰活動 | 薄 井 篤 子 | (日 本 学 術 振 興 会) | |
| 8. メディアとしての宗教・メッセージとしての宗教 | 竹 沢 尚一郎 | (九 | 大) |

9月13日(日) 午後(13:30~16:30)

- | | | | |
|-------------------------------------|---------|----------|----|
| 1. 浄土教徒の社会的実践(V) — 政教分離訴訟の最近の動向 — | 菱 木 政 晴 | (西 山 短 | 大) |
| 2. 浄土教系信仰運動・一味会の職業倫理 | 武 田 道 生 | (大 正 | 大) |
| 3. 教祖とその家族 — 中山みきの場合 — | 池 田 士 郎 | (天 理 | 大) |
| 4. 近代日本の民衆宗教の植民地布教 — 天理教の朝鮮布教を中心に — | 李 元 範 | (一 橋 | 大) |
| 5. ハワイ日系移民のアメリカ化とキリスト教会 | 茂 義 樹 | (梅 花 短 | 大) |
| 6. ハワイ日系社会の「米化」とキリスト教 (1920~30年代) | 吉 田 亮 | (同 志 社 | 大) |
| 7. Theosophical Society の活動 | 西 尾 秀 生 | (近 | 大) |
| 8. 亡霊出現譚と近代イギリス宗教史 | 山 中 弘 | (愛 知 学 院 | 大) |
| 9. 修養道徳型新宗教の形成過程 | 島 菌 進 | (東 | 大) |

9月14日(月) 午前(9:00~12:00)

- | | | | |
|-----------------------------------|-------------|-----------------|----|
| 1. 道家思想における「王」という概念のシンボリズムについて | リアナ・トルファシュ | (筑 波 | 大) |
| 2. 中国古代の地母神 — 『楚辞』九歌に関する一考察 — | 森 雅 子 | (慶 | 大) |
| 3. 北魏太武帝の道教観 | 春 本 秀 雄 | (大 正 | 大) |
| 4. 悔過の儀礼について | 藤 谷 厚 生 | (龍 谷 | 大) |
| 5. 本願思想の変遷について — 特に浄土教祖師の理解を中心に — | 久米原 恒 久 | (淑 徳 短 | 大) |
| 6. 浄土五祖伝について | 金 子 寛 哉 | (大 正 | 大) |
| 7. 七寺所蔵『釋浄土群疑論』 | 村 上 真 瑞 | (佛 教 | 大) |
| 8. 「散善義」における善導浄土教の特色について | 岡 宏 | (本 願 寺 派 宗 学 院) | |
| 9. 善導教学における二種深心の思想的な意味について・その二 | ジョアキン・モンテイロ | (同 朋 | 大) |

9月14日(月) 午後(13:30~16:30)

- | | | | |
|--------------------------------|---------|-------------|----|
| 1. 古代インドの入門式 — upanayana — | 梶 原 三恵子 | (阪 | 大) |
| 2. Veda と Sūtra における過失の有無について | 黒 田 泰 司 | (大 阪 学 院 | 大) |
| 3. 初期ジャイナ教の祖師研究 — 転輪王について — | 杉 岡 信 行 | (東 方 研 究 会) | |
| 4. 仏教とジャイナ教における karma の問題 | 安 藤 嘉 則 | (駒 沢 女 短 | 大) |
| 5. ジャイナ教における「水」について | 渡 辺 研 二 | (淑 徳 短 | 大) |
| 6. ジャイナ教理における微点 (pradeśa) について | 大 平 鈴 子 | (淑 徳 短 | 大) |
| 7. ヴェーダーンタ・デーシカによるサーンキヤ派の解脱説批判 | 三 上 俊 弘 | (東 北 | 大) |
| 8. ラーマーヌジャにおける神の恩寵について | 木 村 文 輝 | (名 | 大) |
| 9. インドにおけるオーロピンド研究 | 北 川 清 仁 | (東 方 研 究 会) | |

第 6 部 会 (視聴覚室)

9月13日(日) 午前(9:20~12:00)

- | | |
|-------------------------|---------------|
| 1. 院政期の宗教事情 | 三橋正 (大正大) |
| 2. 『不動智神妙録』にみる劍禅一如観 | 新保哲 (姫路独協大) |
| 3. 『正法眼蔵』における尽力について | 栗谷良道 (曹洞宗宗学研) |
| 4. 『正法眼蔵』における儀礼の対象 | 熊本英人 (曹洞宗宗学研) |
| 5. 金沢における普度会法要の歴史と現代的意義 | 勝田哲山 (曹洞宗教化研) |
| 6. 日本の課題 — 禅の今日的意義 — | 原田弘道 (駒大) |
| 7. 同心について | 鈴木格禅 (駒大) |
| 8. 『六祖壇經』の五本、七冊について(7) | 長嶋孝行 (国会図書館) |

9月13日(日) 午後(13:30~16:30)

- | | |
|-------------------------------------|-----------------|
| 1. 村上泰音の『立教大論』について | 池田英俊 (旭川大) |
| 2. 空海と虚空蔵求聞持の法 | 八田幸雄 (関西学院大) |
| 3. 蔵俊の『菩提院鈔』と『變旧抄』に関する一考察 | 蜷川祥美 (龍谷大) |
| 4. 死について — 法相唯識における死と貞慶の臨終観を中心として — | 城福雅伸 (龍谷大) |
| 5. 法然上人靈跡巡拝記に関する一考察 | 山本博子 (佛教大) |
| 6. 法然浄土教の民衆的意義 — 熊谷入道蓮生の信仰から — | 亀山純生 (東京農工大) |
| 7. 法然の至誠心釈の成立過程 | 永井隆正 (知恩院浄土宗学研) |
| 8. 『總料簡章私記』について | 後藤康夫 (龍谷大) |

9月14日(月) 午前(9:00~12:00)

- | | |
|-----------------------|-----------------|
| 1. 親鸞に於ける聖徳太子の佛道 | 柳瀬彰弘 (関西大倉高) |
| 2. 近代真宗教学の意義について | 藤原正寿 (大谷大) |
| 3. 鈴木大拙博士論 | 和田真二 |
| 4. 親鸞の化土往生思想(二) | 武田晋 (龍谷大) |
| 5. 親鸞における真門と弘願 | 紅楳英顕 (相愛女短大) |
| 6. 『顕浄土真實教行証文類』後序について | 杉岡孝紀 (龍谷大) |
| 7. 歎異抄における悪の問題 | 西田真因 (真宗大谷派教学研) |
| 8. 『末燈鈔』随信房宛書簡について | 徳永大信 (九州龍谷短大) |

9月14日(月) 午後(13:30~16:30)

- | | |
|------------------------------------|------------|
| 1. 日蓮聖人における食の体系の課題(二) — 酒の受容に関して — | 目黒きよ (立正大) |
| 2. 日蓮聖人の治病観 | 野口真澄 (立正大) |
| 3. 日蓮の歴史的自覚について | 間宮啓壬 (東北大) |
| 4. 日蓮『注法華経』の引用経論について | 関戸堯海 (立正大) |
| 5. 日蓮の禅宗批判の基底 | 三輪哲也 (立正大) |
| 6. 日蓮遺文不敬事件の結末 | 小野文瑠 (立正大) |
| 7. 明治期における日蓮宗宗政についての一考察 | 安中尚史 (立正大) |
| 8. 日蓮における宗教的懷疑と罪の問題 | 原慎定 (立正大) |

第 7 部 会 (206教室)

9月13日(日) 午前(9:20~12:00)

- | | |
|---------------------------|---------------------|
| 1. 万葉集に見る儒教 | 芦 名 裕 子 (聖 泉 短 大) |
| 2. 『靈異記』にみる慚愧 | 池 見 澄 隆 (佛 教 大) |
| 3. 平安時代の宮中祭祀——祭日の問題を中心に—— | 渡 辺 勝 義 (九 大) |
| 4. 平安時代における都市と仏教 | 藤 原 正 巳 (堺 女 子 短 大) |
| 5. 神仏習合論の再検討 | 中 村 生 雄 (静 岡 県 立 大) |
| 6. 神仏出現に関する解釈譚の成立 | 鈴 木 岩 弓 (島 根 大) |
| 7. 熊野那智参詣曼荼羅の製作者私考 | 根 井 淨 (神 戸 常 盤 短 大) |
| 8. 鎌倉末期の北陸修験 | 白 山 芳 太 郎 (皇 学 館 大) |

9月13日(日) 午後(13:30~16:30)

- | | |
|--------------------------|-------------------|
| 1. 乗因の神道説と道教 | 菅 原 信 海 (早 大) |
| 2. 富士谷御杖の言語観 | 濱 砂 存 儀 (国 学 院 大) |
| 3. 『中臣祓注抄』所収「中臣祓」の本文について | 白 江 恒 夫 (芦 屋 大) |
| 4. 『両宮本誓理趣摩訶衍』について | 門 屋 温 (早 大) |
| 5. 物忌日の設定に関する小考察 | 鈴 木 一 馨 (駒 大) |
| 6. 神社復祀と遷宮祭 | 桜 井 治 男 (皇 学 館 大) |

9月14日(月) 午前(9:00~12:00)

- | | |
|-------------------------------|---------------------------|
| 1. 村落社会と神葬祭運動 | 遠 藤 潤 (東 大) |
| 2. 近代化による死に対する意識の変化 | 村 上 興 匡 (文 化 庁) |
| 3. 初期帰一協会と渋沢栄一 | 石 倉 孝 祐 (都・北 区 教 委) |
| 4. 明治初期の宗教政策に対する居留外国人の反応 | 中 村 博 武 (長 崎 外 語 短 大) |
| 5. R. ベラー『徳川時代の宗教』再考 | 林 淳 (愛 知 学 院 大) |
| 6. 御嶽信仰における組織形成についてII | 木 村 登 次 (愛 知 学 院 大) |
| 7. 奥山の稲荷信仰——大和十津川郷玉置山神社の三狐神—— | 菊 池 武 (砺 波 市 立 散 村 地 域 研) |
| 8. 稲荷信仰における弁財天信仰 | 大 森 惠 子 (明 徳 商 高) |

9月14日(月) 午後(13:30~16:30)

- | | |
|-----------------------|---------------------|
| 1. 高野山の盆行事 | 日 野 西 眞 定 (高 野 山 大) |
| 2. 無墓制をめぐる日本の諸地域の比較研究 | 本 林 靖 久 (大 谷 大) |
| 3. 長崎県壱岐の民間宗教者 | 福 島 邦 夫 (長 崎 大) |
| 4. 霧島東麓のテラモト制 | 古 賀 和 則 (龍 谷 大) |
| 5. 御柱祭の構成と要素 | 島 田 潔 (国 学 院 大) |
| 6. 「柱松行事」の諸相について(Ⅳ) | 竹 内 堅 丈 (愛 知 学 院 大) |
| 7. 兵庫県関宮町葛畑の庚申符 | 窪 徳 忠 (天 理 大) |

第 8 部 会 (207教室)

9月13日(日) 午前(9:20~12:00)

- | | |
|-------------------------------------|-----------------|
| 1. 点字出版による文書布教 | 荻原 稔 (府中朝日養護学校) |
| 2. 情報ネットワーク社会における宗教組織の課題 | 水谷 浩志 (浄土宗総合研) |
| 3. 教育相談にみられる宗教的要素 | 西田 隆男 (自由の森学園) |
| 4. 教会と学校の間——カトリック学校の諸問題—— | 北川 直利 (聖霊女短大) |
| 5. 宗教教育と宗教意識の変容——宗教系高校の宗教意識調査によって—— | 河野 恒心 (上智大) |
| 6. 宗教と教育——ジョン・デューイの場合—— | 長谷 武久 (大正大) |
| 7. 仏教と福祉——「能滅衆生闇」考—— | 渡辺 寛勝 (身延山短大) |
| 8. 慈悲から社会福祉へ?——日本の宗教状況をめぐる一検討—— | 笠井 正弘 (西日本短大) |

9月13日(日) 午後(13:30~16:30)

- | | |
|-----------------------------------|---------------|
| 1. イスラームにおける啓示と知識と理解 | 小田 淑子 (京都女子大) |
| 2. イスラム・アフマディー派の教義 | 磯崎 定基 (大東文化大) |
| 3. 臨終における執着の問題 | 神居 文彰 (大正大) |
| 4. 臨死体験の宗教的イメージ——ある青年の実例—— | 別華 薫 (京大) |
| 5. 宗教と看護——安らぎと癒しの場としての床—— | 澤田 愛子 (北大) |
| 6. 生命とキリスト教倫理——薬剤RU486をめぐるドイツの例—— | 酒井 紀幸 (早大) |
| 7. 生と死の連続性と科学 | 平尾 始 (東京工芸大) |
| 8. 死をめぐる問題の諸相 | 脇本 平也 (駒大) |

9月14日(月) 午前(9:00~12:00)

- | | |
|--------------------------------------|-------------|
| 1. 韓国における家族の崩壊について | 金 永晃 (大正大) |
| 2. 韓国巫俗における chapshin をめぐって | 丹羽 泉 (東京外大) |
| 3. 韓国のキリスト教とシャーマニズム | 溯上 恭子 (南山大) |
| 4. 都市のシャーマンの職能者に関する一考察 | 佐藤 憲昭 (駒大) |
| 5. 童乩から法師への変身過程考——フィリピン・マニラの大千寺の場合—— | 佐々木 宏幹 (駒大) |
| 6. 芹沢光治良の作品におけるある憑依現象について | 弓山 達也 (大正大) |
| 7. ルイス・フロイス『日本史』における身体観 | 丸茂 湛祥 (立正大) |
| 8. 象徴からプラクティス論へ | 栗津 賢太 (創価大) |
| 9. 儀礼研究の動向 | 藺田 稔 (京大) |

9月14日(月) 午後(13:30~16:30)

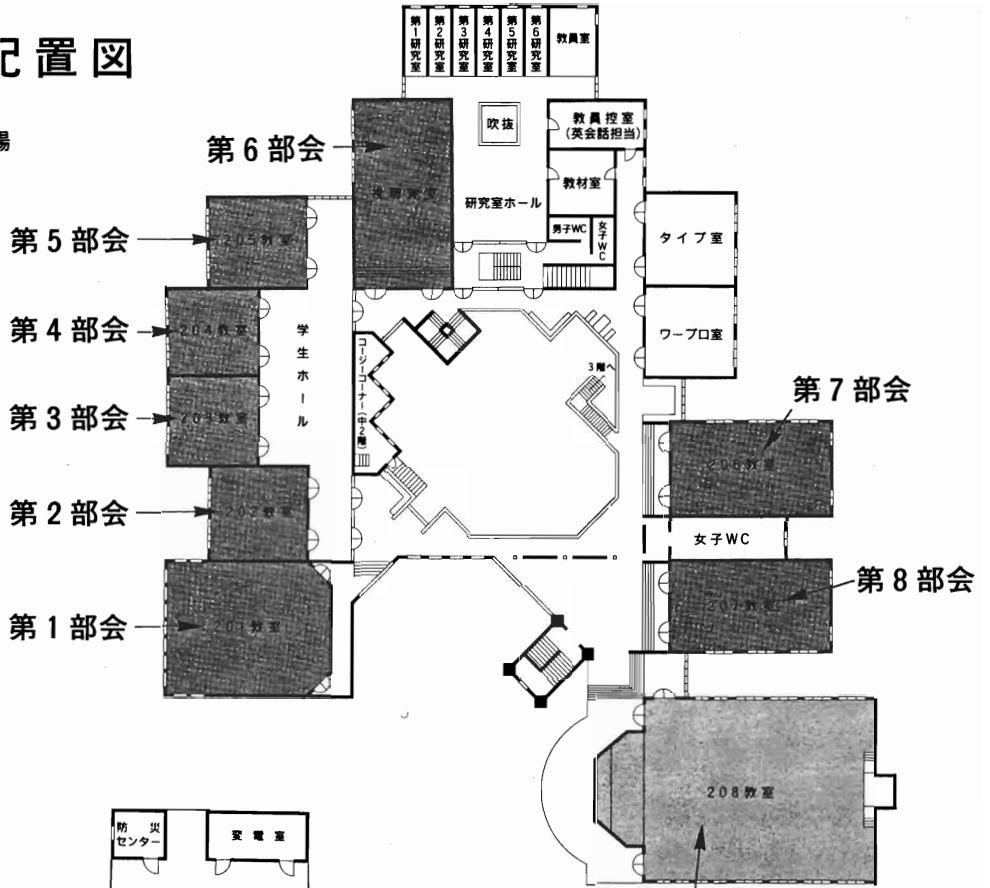
- | | |
|-----------------------------------|----------------|
| 1. ナショナリズムと宗教研究——バタック族の宗教研究の一側面—— | 山本 春樹 (天理大) |
| 2. ロシアにおける宗教の復興と共産主義の消滅 | 田口 貞夫 (上智大) |
| 3. Gitārahasya…宗教的覚醒としてのインド独立運動 | 堀内 みどり (天理大) |
| 4. 現代トルコにおける政教関係(2)——ヌルジュをめぐって—— | 佐島 隆 (東北大) |
| 5. キリスト教聖霊運動における理論化の一事例 | 池上 良正 (筑波大) |
| 6. カトリシズムの構造——メキシコ、トラホムルコの場合の分析—— | 野村 暢清 (久留米大) |
| 7. ポーランドにおける聖地巡礼 | 杉井 純一 (ヤギェウォ大) |
| 8. ルーマニア・フォークロアにおける死の形象について | 新免 光比呂 (東方研究会) |
| 9. 復活祭における光の習俗とその意味 | 植田 重雄 (早大) |

1号館配置図

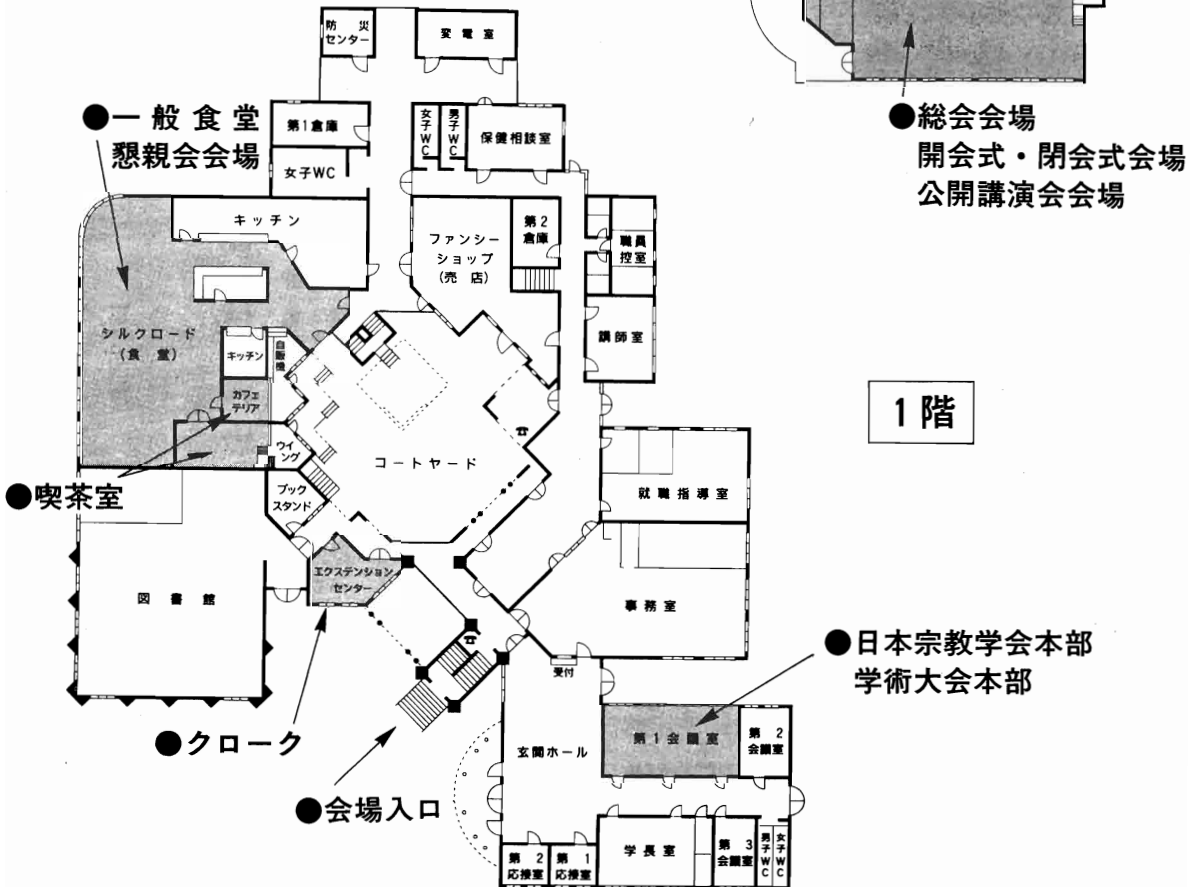


部会会場

2階



1階



日本宗教学会学術大会 スクールバス運行予定表 (みずほ台駅前発)

9月12日(土)

9月13日(日)

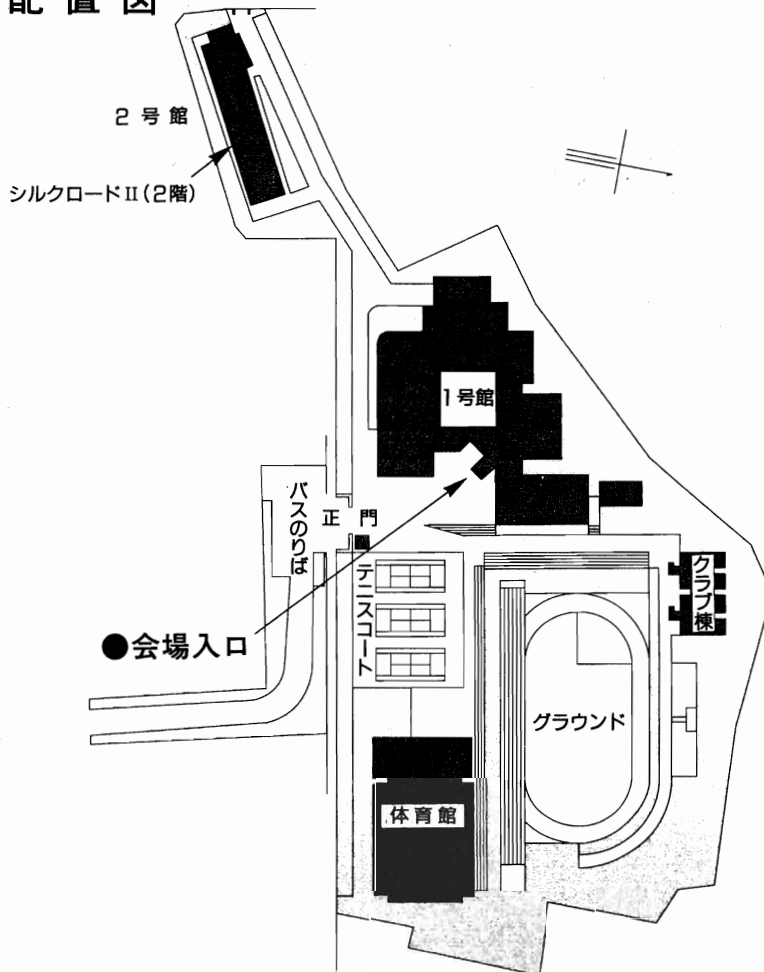
9月14日(月)

| | |
|----|-------------------|
| 8 | 25 32 38 48 |
| 9 | 00 20 40 |
| 10 | 00 20 40 |
| 11 | 00 15 30 45 |
| 12 | 00 18 30 45 |
| 13 | 00 10 20 30 40 50 |
| 14 | 00 10 20 30 40 50 |
| 15 | 00 15 30 45 |
| 16 | 00 15 30 45 |
| 17 | 00 10 40 |
| 18 | 10 40 |
| 19 | |

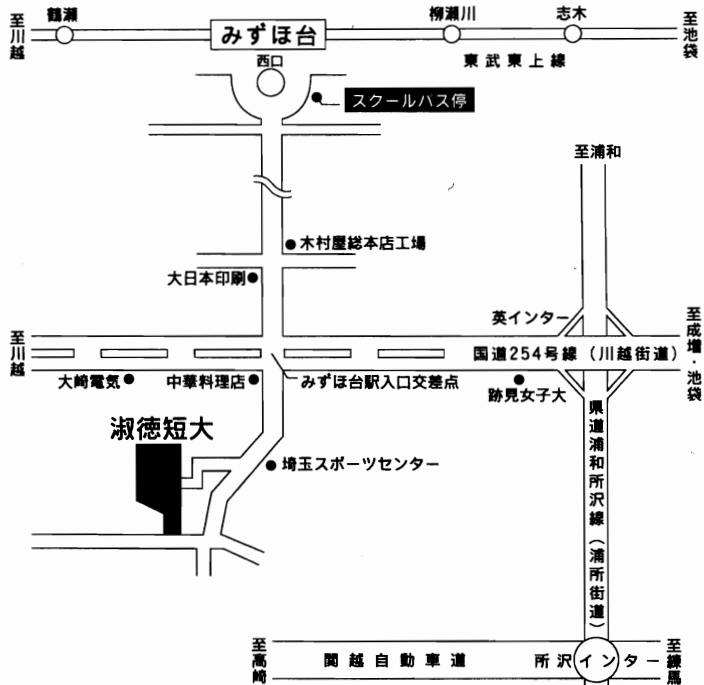
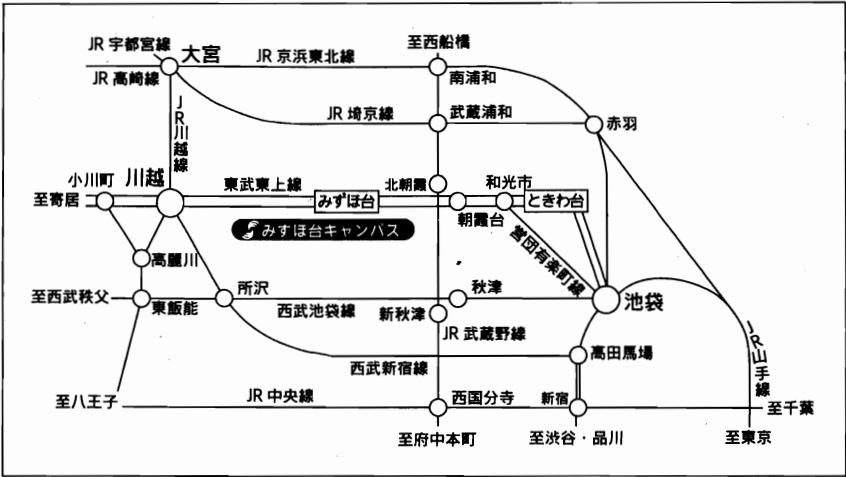
| | |
|----|----------------------------|
| 8 | 00 09 16 22 30 37 42 50 |
| 9 | 00 06 11 17 25 30 36 43 50 |
| 10 | 00 10 20 30 40 50 |
| 11 | 00 10 20 30 40 50 |
| 12 | 00 10 20 30 40 50 |
| 13 | 00 10 20 30 40 50 |
| 14 | 00 10 20 30 40 50 |
| 15 | 00 10 20 30 40 50 |
| 16 | 00 10 20 30 40 50 |
| 17 | 00 05 15 25 35 45 55 |
| 18 | 10 25 40 55 |
| 19 | 10 25 |

| | |
|----|-------------------------|
| 8 | 00 18 24 32 36 41 47 54 |
| 9 | 00 10 20 27 34 41 48 53 |
| 10 | 00 10 20 30 40 50 |
| 11 | 00 10 20 30 40 50 |
| 12 | 00 10 20 30 40 50 |
| 13 | 00 10 20 30 40 50 |
| 14 | 00 10 20 30 40 50 |
| 15 | 00 15 30 45 |
| 16 | 00 20 40 50 |
| 17 | 00 10 30 50 |
| 18 | 10 30 |
| 19 | |

校舎配置図



淑徳短期大学みずほ台キャンパス案内図



- 東武東上線「みずほ台駅」下車
池袋方面より乗車ー準急（池袋より25分）または普通
川越方面より乗車ー準急（川越より12分）または普通
- 「みずほ台駅」西口よりスクールバスが運行（所要時間7分）

キャンパス所在地

■ みずほ台キャンパス/英語学科・国文学科
 〒354 埼玉県入間郡三芳町藤久保1150-1 ☎0492 (59) 1311 (代表)